

提 言

北陸地域を我が国のIoTの研究拠点に

北陸情報通信協議会イノベーション部会ではワーキンググループを設置して、北陸地域におけるIoT (Internet of Things) の利活用の方向性及び北陸地域のIoTに対する位置づけを検討した。

検討の結果、北陸地域は国内でも有数のモノづくりの集積地でありモノ(Things)に対するアドバンテージがあること、センサーや建材などIoT時代に重要な意味を持つメーカーの集積度が高いこと、通信・機械・繊維・食品の中小工場が多くIoT導入検討を考える上での格好の場であること、IoT化はデバイスからネットワーク、プラットフォーム、サービス事業まで広範な業種の企業連携が必須となるが、独り勝ちではない北陸地域特有の商習慣がこの形成にマッチすること、国土保全の観点からも、また、第一次産業を含めた産業の広がり具合からみても様々なトライができること、IoTに関連した研究機関が集積していることに加えIoTに関連したクラウド企業が多数存在している等から、「北陸地域はIoTを最も検討しやすく、かつ蓄積がある地域」、であり「北陸地域はIoTによる付加価値を生み出しやすい地域」であることで議論の一致をみた。

さらに、この北陸モデルについては、全国に点在する中小工場への導入で「全国に展開可能」であり、かつ、ゼロサムゲームではなく我が国全体の底上げを目指すものでありグローバル化が目指せるモデルとして、「北陸モデルを世界発信していく」ことで議論の一致をみた。

そこで、イノベーション部会によるこれらの検討結果について、「北陸地域におけるIoT研究開発促進に関する提言」として次のとおり提言するものである。

北陸地域はIoTを最も検討しやすく、かつ蓄積がある地域

北陸地域はIoTによる付加価値を生み出しやすく、かつ全国に発信可能

このため、IoTに関し、

□ 北陸地域を我が国のIoTの研究開発拠点としていくべき。

➡ **北陸版シリコンバレーの形成**

□ 国の研究開発戦略と連携し、関係機関は、必要となる国の研究開発予算を確保すべき。

➡ **北陸総合通信局等と連携**

□ 北陸地域産業は、関係機関の取り組みと連携し分野横断（情報通信、製造、建設、健康など）で付加価値を生み出し北陸モデルとして情報発信すべき。

➡ **北陸モデルを世界に発信**